▲　水気の多い雪えらい降りましたね---　（1月12日撮影・当山境内地）

慧光

金光寺寺報
第200号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

信心のさだまるとき　往生またさだまるなり

２月の法語は、親鸞聖人が関東各地の門弟に与えられたお手紙（御消息）で、『親鸞聖人御消息』からの一文です。

真実信心とは、阿弥陀さまが悩み苦しむ私たちを、慈愛に満ちた母のごとく受けとめて、「必ず救う、我にまかせよ」と願われたお心が如来の喚び声となり、その声をそのままに聞くことで、私たちの信心となります。すなわち、本願招喚の勅命たる名号のいわれを聞いて、疑いなく二心ない信心は、自力のはからいの心がすたれ、願力にまかせる心という信相です。「信心をいただく」といわれるのは、本願の上にすでに用意されてあった信心だからです。南無阿弥陀仏の名号は、衆生の心にあらわれて信心となり、口にあらわれて称名となるのです。

また、無上涅槃の真因が決定した人は、法薬の効力が発揮され、ただ今から命終までも、まだ命終往生後も効力が失われません。苦悩に悩む私の人生が、阿弥陀さまの慈悲に出遇う時に、煩悩をかかえたまま抱き取られ、阿弥陀さまに抱かれた人生を歩み、さとりの世界に導かれていくこととなります。

親鸞聖人は、その利益を、この世において往生が決定し、大涅槃のさとりを開くことに決定した仲間である正定聚の位に住す、と明かされます。また、命終後は、必至滅度の願（第十一願）のはたらきにより、往生と同時に、この上ない涅槃のさとりを開くとされます。私たちの往生成仏の因も果も、阿弥陀さまの仏願力によって成ぜしめられ、その本願成就の救いは、今ここに届けられているのです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏教用語豆辞典

用　心

「マッチ一本、火事のもと、火の用心」寒風に拍子木の音が響きます。

「用心」は文字通り、心を用いること、万一に備える心をを意味する日常語です。「あの人は用心深い人だ」などといいます。

盗賊の侵入などに備えて用意しておく「用心棒」、万一に備えて準備しておく「用心金」、さらに、火災などのときに家財などを入れて運ぶのに用いる大きなかごを「用心駕籠」といいました。

仏教では、いつでもどこでもだれもが、綿密な心配りを求められ、用心することが仏道修行の基本姿勢と考えられています。

道元禅師には『学道用心集』があり、参禅者の心得を、法然聖人には『往生浄土用心』があり、念仏行者の用心を教えています。

「用心」はまた、「常在正念」とも訳されます。仏教では、単に心をつかうだけでなく、平素つねに正しく心をはたらかせていることを用心というのです。

それが一般的な注意という意味になりました。

「火の用心」というからには平素から心がけてほしいものです。

（本願寺出版社発行
辻本順著敬
「仏教用語豆辞典一〇〇
ＰＡＲＴⅡ」から）

仏事お休みのお知らせ

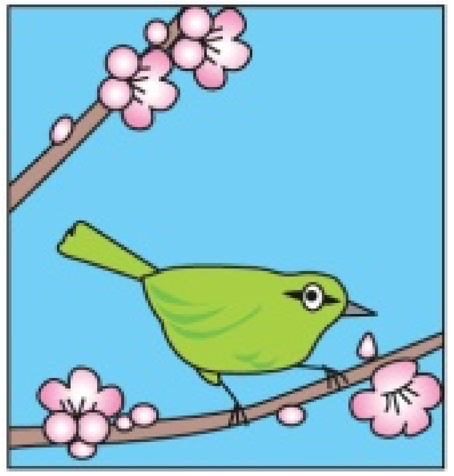
下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎　２月

２２日（木）午前
２３日（金）午後

◎　３月

４日（日）終日
５日（月）終日
１６日（金）午後
２１日（水）午前中



ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
２月８日現在　アクセス数　８０，９０６人

住職ひとりごと

昨夕（六日）ＭＲＴテレビ「ニュースネクスト」という番組の中、天気予報で気象予報士（野田さん）が「今日も五ヶ瀬町鞍岡は真冬日でした。明日も真冬日ですと、鞍岡は今年に入って二回目の三日連続真冬日です」とおっしゃっていました。▼この時期になると天気予報でよく露出してくる「五ヶ瀬町鞍岡では」。あまりうれしくない用途ですが、昨夕の野田さんの発言、私は特にいやでした。毎日寒い思いをしているのに追い打ちをかけるな、と思ったことでした。▼また、ニュースでアナウンサーの皆さんが何度もおっしゃる「今シーズン最強寒波の襲来」のおどし文句のため、水道や花瓶（かひん）の凍結防止対策に毎日とても神経を使っています。おかげで今のところ、水道管や花瓶の破裂は見当たりません。▼しかし、猛烈寒波でまだ水道管の中の凍った水が融けていないため、破裂現象が現れていないのかもしれません。油断大敵です。ちなみに水道管や花瓶が破裂するのは水が融けはじめたときに生じるそうです。早く暖かくならないかなー。

（住職　松井卓郎）